平成２９年（２０１７年）７月１４日
教 育 委 員 会 資 料
教育委員会事務局指導室長

オリンピック・パラリンピック教育の推進の取組について

１　オリンピック・パラリンピック教育のねらい

全ての区立学校を「東京２０２０オリンピック・パラリンピック教育実施校」と位置付け、東京大会の開催を契機に、幼児・児童・生徒が、スポーツにより心身の調和的な発達を遂げ、歴史・意義や国際親善などその果たす役割を正しく理解し、我が国と世界の国々の歴史・文化・習慣などを学び、交流することを通して国際理解を深め、進んで平和な社会の実現に貢献できるグローバル人材の育成を図る。

２　重点的に育成する５つの資質

①自ら考え解決する力　　②コミュニケーション能力
③人権尊重・社会貢献の精神　④自己の確立・国際感覚
⑤健康・体力・耐力

３　取組内容

学習指導要領の目標と内容に照らして、各教科等の学習内容や活動をオリンピック・パラリンピックに関連付けて、４つのテーマ（精神、スポーツ、文化及び環境）と　２つのアクション（学ぶ、行う）を組み合わせた取組を展開している。

アクション	活動	実践例
学ぶ	日本の伝統・文化等の学習	（社会科） 能舞台の訪問・鑑賞 （給食指導） １１月２４日の和食の日にちなんだ和食メニューの提供
	参加国の文化等の学習	（総合的な学習） 参加国の文化、気候、地形を知る
行う	アスリート等との交流活動	（体育） アスリートの経験談、実技指導
	外国人との交流	（総合的な学習） 外国人との交流により、多様性の尊重、共生社会の実現の大切さを知る。
	運動の日常化・習慣化	（体力向上旬間） 休み時間、放課後を活用し、運動の機会を確保し、運動の楽しさを知る。

４　具体的な取組事例

⑴　第四中学校（平成２８年度）

目　的	ボランティアマインドの醸成
内　容	地域の行事において、ボランティアとして参加した生徒に対して、活動報告をした生徒に対してボランティアスピリット賞を授与する。 ○参加生徒数（延）１９０名 ○ボランティアスピリット賞　５０名
事　例	（妙正寺川マラソン大会におけるボランティア活動） 地域の伝統行事であるマラソン大会の運営にボランティアとして参加し、成就感や達成感を味わい、また、ランナーとしても多くの生徒が大会を盛り上げた。 ○ボランティア２０名　○ランナー４０名が参加
成　果	前年度に比べ、参加者が大幅に増え、ボランティアマインドの醸成が進んでいる。

⑵　中野本郷小学校（平成２８年度）

目　的	○スポーツの実践による健康増進に興味・関心をもたせ、体力向上を図る。 ○平和な社会の実現に進んで貢献しようとする児童を育てる。 ○児童の人権意識を向上させる。
内　容	○障害者スポーツを実践している方の話を聞く ○障害者スポーツの実践
事　例	○車いすバスケットボール、アイススレッジホッケーのパラリンピアンを招いて、全校児童が直接話を聞く。 ○車いすバスケットボールを体験し、車いすでの苦労や様々な工夫について理解を深める。
成　果	○パラリンピアンとの交流から、スポーツの魅力に触れ自ら進んで運動に親しもうとする意識が芽生えた。 ○用器具を利用し、障害者と一緒に楽しめるスポーツでることを気づき、共生できることの大切さを実感した。